

広報



関市イメージキャラクター
「関まほもん」

ときめき きらめき いきいきを伝える

Seki

せき

2017

2

No.1672

「まさか!」
のために
と言わない

特集
地震がきてもあわてない
もしもの「備え」…P2~5

TOPICS

- ・税申告のご案内…P6~8
- ・介護予防・日常生活支援総合事業…P10,11
- ・お知らせ…P26~34
- ・文化会館／図書館…P35
- ・しあわせヘルスだより…P36,37

熊本地震後における熊本県益城町の様子

自助
×
公助
×
共助

地震が来てもあわてない もしもの「備え」

- 一. 寝室に家具を置かない
- 二. 家具の転倒防止対策
- 三. 備蓄方法のひと工夫

地震発生からしばらく経過すると、大震災への恐怖も少しずつ薄れてしまうかもしれない。だが、間違いなく、地震は再びやってくる。そして、そのとき、備えをしておけばパニックにならなくても済むだろう。

地震発生の可能性と発生した場合の「自助」の重要性を専門家は指摘する。

40年以上に渡り地震工学を研究される専門家 杉戸 真太さんに話をうかがった。杉戸さんは、清流の国ぎふ防災・減災センター長を務める、地震工学の第一人者だ。



杉戸 真太 さん

●Masata Sugito

岐阜大学理事・副学長

(清流の国ぎふ 防災・減災センター長)

「東北地方太平洋沖地震（H23）の影響で、津波の脅威が非常に大きく取り上げられていますが、特に岐阜県の場合は、津波がこないから安全、というわけではありません。我が国には約2000の活断層があるとされていますが、活動度や活動した際の社会への影響度などを考慮し、選定した『主要活断層帯』と呼ばれるものが97あります。その中でも、断層の数が一番多いのが中部地方です」

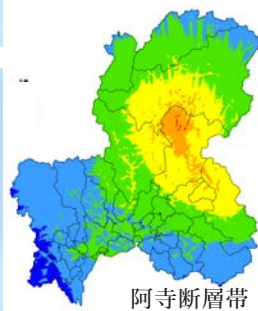
地震に遭遇する確率は
交通事故より高い

岐阜県内には、
震度5以上の地震が
平均1回/10年程度
発生する

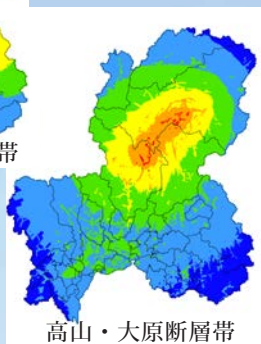
「ここ数十年を見ると、兵庫県南部地震（H7）・鳥取県西部地震（H12）・新潟県中越沖地震（H19）・熊本地震（H28）など、いろいろな場所地震が発生しています。ただし、実際に発生したこれらの地域と比べても、アクティブな断層の数は岐阜県の方が多いです。すなわち、地震が発生する可能性が他県に比べて高いといえます。

我々が30年以内に交通事故にあう確率は約25%といわれていますが、岐阜県付近で、30年以内に経験することになると思われる海溝型の地震発生確率は80%位です。それに加えて内陸直下地震の発生も考えられる。つまり、交通事故よりかはるかに高い確率で地震が発生するのです」

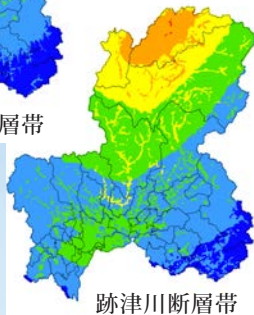
■内陸直下地震による
推定震度分布
＜岐阜県地震被害想定調査
(2013)＞



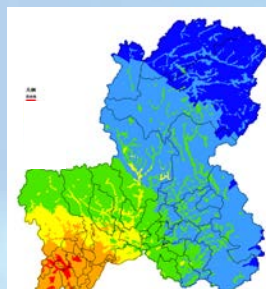
阿寺断層帯



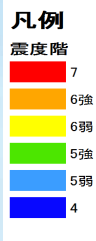
高山・大原断層帯



跡津川断層帯



養老・桑名・四日市断層帯



2011/3/11

東北工業大学地震工学研究室の被災状況
(転倒防止用の金具が取り付けられていたが、強い揺れが長く続き、すべての金具が外れ、家具などがすべて転倒した。) ■提供：東北工業大学

「我が事と考えると、備えることが大切です。発生した場合、被害ゼロにはできませんが、少しでも少なくする努力が必要。自分で備えた防災のいろいろなことは、必ず、過不足なく役に立ちます。100%でないけど0%でもありません」

どのように暮らせばいいの?

いつ地震がくるの?

「いつくるのかは、わかりません。いつきてもおかしくないけれど、よくわからないので前もって今から準備しましょう。やっただけの価値は絶対にあります」

寝る場所に物を置かない!

「私がよく言うのはへ自分が寝ている部屋には、重いもの、倒れそうなものを置かない」ということです。そうしておけば、もし、寝ている時に地震がきたとしても、家の中で相対的に安心できる場所に移ることができます。

もちろん、転倒防止措置を講じることもある程度有効ですが、海溝型地震のように強い揺れが長く続くと、固定金具が外れてしまいます。自分たちの命を救うのは自分たちなのです。

たんすなどの重い家具はたいてい倒れる方向が決まっているので、そのことも考えた置き方の工夫も防災対策の一つです。ただし、日頃から家族との会話が少ないお父さん方!

寝室のたんすの位置が知らぬ間にいつもと変わっていたら、注意が必要かもしれませんね (笑)」

『まさか!』と言わないために

認定特定非営利活動法人
レスキューストックヤード

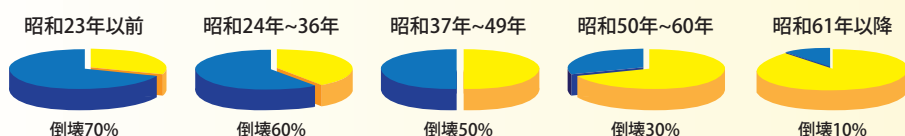
栗田暢之さん

くりたのぶゆき ●レスキューストックヤード代表理事。
現在までに40箇所以上の地震・水害・噴火などの被災地で支援活動を行う一方、災害に強いまちづくりや人づくりの各種事業にも多く携わる。また国や自治体などの防災や災害ボランティアなどに関する各種委員会の委員も歴任。「清流の国ぎふ防災・減災センター」も兼務。

『まさか!』と言わないための4箇条

- ・家を丈夫に
- ・家具の前で寝ない
- ・備蓄品は食べながら使いながら
- ・自分が住む土地を知る

建築年代と倒壊率の比較



2階建て、木造軸組工法住宅、約1500棟
神戸市東灘区での全数調査(約800ヘクタール、約2000棟を対象)
1995兵庫県南部地震、芦屋市(毎日新聞社:毎日ムック1995.4より)

●家を丈夫に

40箇所以上の被災地で支援活動をしてきましたが、どの現場でも家が壊れているかどうかは非常に大きな問題となります。特に、1981年の建築基準法改正前の家は、地震がきた時に壊れる確率が、どうしても高くなります。でも、すぐに家を建て替えるわけにはいかなないので、寝室をはじめ、家の一部だけを丈夫にしておくとか、いろいろな方法があります。

●家具の前で寝ない

次にできることは、タンスの前で寝ないこと。阪神淡路大震災や熊本地震でもそうですが、家の中に凶器となるものが倒れてきます。寝ている時は一番無防備なので、そういうものを、せめて寝室に置かないようにする。置かなくてはならない場合は、きちんと止めておく。命を守る大切です。

●備蓄品は、

食べながら使いながら

災害大国・日本に住む国民として3日分程度の食糧は備えておく必要があります。この備えも、特別に準備するのではなく、「家庭内循環備蓄」というのですが、消費しながら循環させることで、暮らしに負荷をかけずに備蓄することができます。

●自分が住む土地を知る

都市部や農村部など、地域によって備えなければならぬものが異なることを理解し、災害が発生した場合をイメージすることも重要です。土砂災害で犠牲となった方の多くが逃げ遅れで、適切な時間に安全な場所に避難しておけば助かった事例は多くあります。



どんなハザード(危険)と暮らしているのかを把握して、リスクと隣り合わせで生きていることをもっと考えなければなりません。

関市に地震がくるか分かりませんが、こないとしたら、たまたまきていないだけで、地震は日本中どこでも起こり得ます。このことを意識し、家を丈夫にして、家具の前で寝ず、ある程度は家庭内循環で備蓄する。そして、自分が住む土地を知ることが、事前に行える備えです。
『まさか!』と言わないための備えをして欲しいですね。

これだけは知っておきたい 日頃からできるコト

なるほど!!



✓ その1. 備蓄品は食べて使って補充して!

使った分の補充 も忘れずに!!

循環備蓄では、ストックしているものはいつ食べてもかまいませんが、消費した量を必ず買
い足すようにしましょう。
災害は明日やってくるかもしれ
ません。消費した分は直後に補
充する習慣をつけましょう。

使った分だけ
買い足す

備える



賞味期限の近い
物から使う

古い物から 使おう!

新しく購入したものから消費しては、備蓄品が古くなり、使用期限が迫ってきます。必ず古いものから消費しましょう。

✓ その2. 『カセットコンロ』と『ガスボンベ』を有効に活用すべし!!



循環備蓄で日常の食材を多めに準備しておいても、災害時はガスや電気、水道が止まり、食材を調理できないことが想定されます。そんな時に役立つのが『カセットコンロ』。非常時用の保存食以外の備蓄品を活かすためにも『カセットコンロ』と『ガスボンベ』が必需品となります。



✓ その3. 家具の転倒防止対策を!



冷蔵庫はチェーンで柱に固定



タンスはL字金具で柱に固定

「家具を固定することで、強い地震に遭遇した場合でも数分間程度は倒れてくるまでの時間をかせぐことができ、その間に逃げることができます。」(全建総連岐阜建労関総支部長 小林裕さん)

※同支部では、市内の高齢者世帯を対象に、家具転倒金具などの取り付けボランティアを行っています。